

稲作情報

No.4 「べんとう肥～本田除草」

J A えちご中越 さんとう営農センター
TEL: 0258 (41) 2887

令和7年 4月10日

「べんとう肥」の施用で「健苗」仕上げ!!

健苗移植で良質茎を早期に確保しましょう!!

1. 移植前追肥(べんとう肥)

液肥散布後は、葉面についた肥料を洗い流すイメージでたっぷりかん水するのじゃ!!

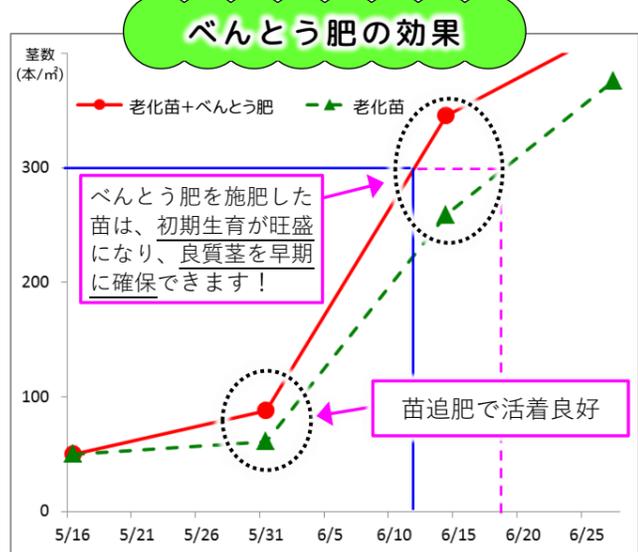


資材名	使用量		備考
	1箱あたり	10aあたり	
くみあい液肥2号	10g以内	200g以内	200倍以上に希釈
尿素	2g以内	40g以内	10aあたり20箱以内
べんとう肥	20g以内	400g以内	

おススメ!!

★ べんとう肥施用のポイント ★

- ① 胚乳からの栄養源を失った苗の老化防止と移植後の活着を促進させるため、移植前4～5日(1.8葉期)頃に施用します。
- ② 1箱あたりの施肥量が、N成分で1～2gとなるよう肥料溶液を散布した後、十分かん水して肥料ヤケを防ぎましょう。
- ③ 軟弱苗・徒長苗の場合でも、移植直前の追肥で活着・初期生育が促進されます。
- ④ プール育苗の場合は箱上まで水を張り、窒素成分で1箱あたり約1～2g相当となるよう肥料を施用し、施用後は2日間落水しないようにしましょう。



品種特性に合わせた移植適期に移植しましょう。また、適正な「栽植密度・植付本数・植付深さ」の移植作業で早期に良質茎を確保しましょう!!

2. 田植え

(1) 田植え時期

天候の安定する5/5以降を目安に移植作業を開始しましょう!!

植え傷みによる「初期生育の停滞」を避けるため、天候不順日(特に低温・強風時)の移植作業は避けてください!!

- ・田植え後 → 3～4cmのやや深水(植え傷み回避)
- ・活着後 → 2～3cmのやや浅水(分けつ促進)

(2) 栽植密度 60株/坪

※ 転作あとや基盤整備あと、過剰生育が懸念される場合は、疎植(50株以下/坪)とします。

(3) 植付本数 3～5本/株

過繁茂防止のため植付本数を確認しながら作業しましょう! また、品種やほ場条件を考慮して植付本数を調整してください!!

(4) 植付深さ 3cm程度の浅植え

トラクターなどで道路に落としてしまった土や泥は、速やかに清掃しましょう!!

3. 初期病害虫の防除対策

5割減栽培では、本田で殺虫剤が使用できません。必ず、育苗箱処理剤で病害虫防除を徹底しましょう!!



資材名	適用病害虫名	使用量	使用時期
パディート箱粒剤	フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネミズゾウムシほか	50g/箱	播種前(床土混和)、播種時、覆土前～移植当日 *1箱あたり使用量: 50gをしっかりと施用します!!
ブーンパディート箱粒剤*	いもち病、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネミズゾウムシほか	50g/箱	*密播・密苗は、「10aあたり使用量1kg」をめやすに1箱あたり使用量を調整(50～100g/1箱)します!!

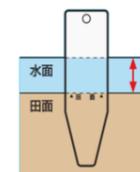
◆ いもち病の常発地域、発生しやすいほ場・品種(わたぼうし、新之助など)では、ブーンパディート箱粒剤を必ず活用し、いもち病の予防防除に努めて下さい。⇒ 初発前の“予防防除”が重要です!!

4. 本田雑草の防除対策

1 本田除草剤の登録内容と使用時期の確認

(1) 本田除草剤(初期剤・初中期一発剤)の登録内容

使用区分	使用資材名	10aあたり使用量	使用時期(移植水稻)	除草剤散布時の水深目安	
初期処理	メテオ	1キロ粒剤	1kg	植代後～移植7日前、移植時、移植直後～移植後30日まで	3～5cm
		フロアブル	500ml		3～5cm
		ジャンボ	10個(300g)	移植直後～移植後30日まで	5～7cm
初中期一発処理	ベッカク	1キロ粒剤	1kg	移植時・移植直後～移植後30日まで	3～5cm
		豆つぶ250	250g	移植3日後～移植後30日まで	5～7cm
		ジャンボ	10個(250g)	移植3日後～移植後30日まで	5～7cm



* 剤型により水深目安が異なるので注意が必要です!(水深スケールの活用)
* 浮き苗や浅すぎる水深は、薬害の発生リスクが高まるので注意しましょう!

注意① 浮き苗や浅すぎる水深は薬害の恐れがあるので、水深をしっかりと確保してから除草剤を散布しましょう。豆つぶ・ジャンボ剤は強風時の使用を避け、風の影響が少ない時間帯(朝・夕)に散布しましょう!!

注意② 除草剤散布後は薬剤処理層の形成のため止水管理します。止水管理中も自然減水しますが、散布後4日間は途中の足し水は厳禁です。5日目以降に落水せず静かに足し水を行います。また、1日あたりの自然減水量は圃場により異なるためスケール等を用いて把握し、適正な水深をキープしましょう!!

雑草の発生は「代かき直後」からはじまります!!



(2) 雑草の発生と生育

① ノビエ

処理限界の葉令になる前に“早め”のタイミングで除草剤を散布します!

休眠中	鞘葉期	1葉期	1.5葉期	2葉期	2.5葉期	3葉期
代かき後日数		7日	7～10日	10～15日	12～20日	15日～

② ホタルイ

処理限界の葉令になる前に“早め”のタイミングで除草剤を散布します!

休眠中	1葉期	2葉期	3葉期	4葉期	花茎抽出
代かき後日数	5～7日	10～12日	12～15日	18日～	

裏面もご覧下さい!!

2 代かき後日数と本田除草剤（初期剤・初中期一発剤）の処理時期の目安

ノビエ (葉数)	ホタルイ (葉数)	代かき後 日数
-	0.5~1.0	5
1.2~1.8	1.0~1.5	7
2.0~2.1	1.5~2.0	10
2.7~2.8	2.0~3.0	12
3.3~3.5	3.0~3.5	15
4.0~4.3	3.5~4.5	20
-	4.5~5.0	25

メテオ（粒剤・707アル・ジャンボ）の処理限界
ノビエ：1葉期まで ホタルイ：発生前～発生始期まで

代かき後
5日までに散布

ベッカク（粒剤・豆つぶ・ジャンボ）の処理限界
ノビエ：3葉期まで ホタルイ：3葉期まで

代かき後
12日までに散布

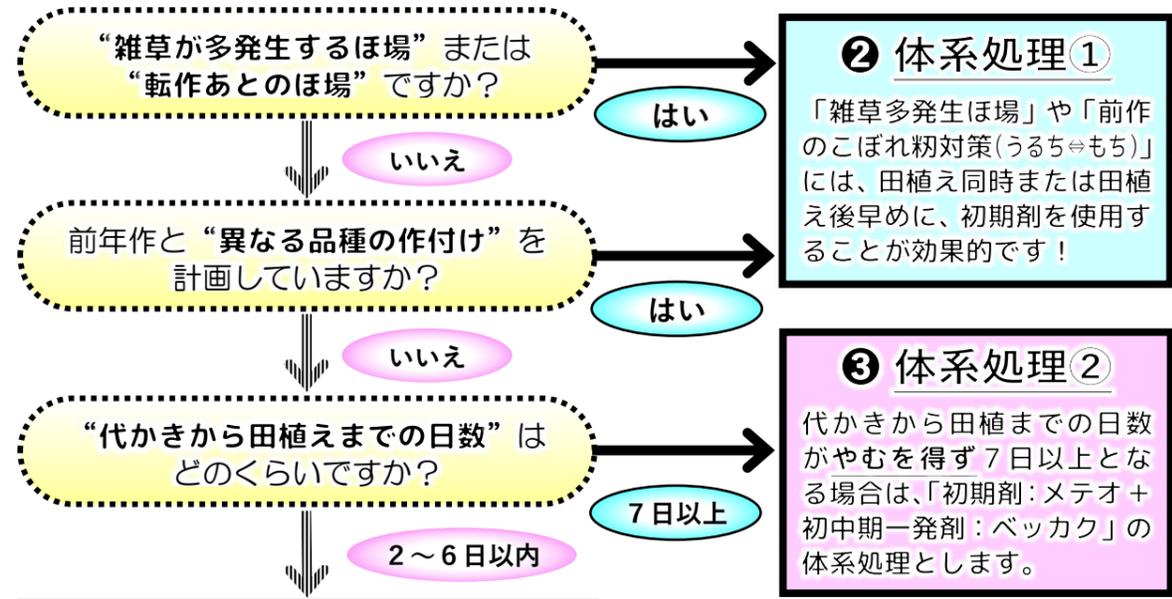
雑草の生育と代かき後日数を考慮して、“**早め**”に除草剤を使用することが重要なジャ!!



3 除草体系の検討

ポイント

以下の設問事項を確認して、除草体系を検討・選定しましょう!!



② 体系処理①
「雑草多発生ほ場」や「前作のこぼれ粉対策(うるちもち)」には、田植え同時または田植え後早めに、初期剤を使用することが効果的です!

③ 体系処理②
代かきから田植えまでの日数がやむを得ず7日以上となる場合は、「初期剤：メテオ＋初中期一発剤：ベッカク」の体系処理とします。

- ①ほ場条件（土性、水持ち、作付体系、作付品種の切換、雑草の種類）
- ②作業体系（代かきから移植までの日数）
- ③難防除・特殊雑草への対応を考慮して除草体系を検討するのジャ!!



4 本田除草剤（初期剤・初中期一発剤）の散布適期の確認

「登録の範囲内」でできる限り雑草の小さいうちに確実に防除します!!
→ 暖冬少雪に加えて、3月下旬から気温の高い気象傾向が続いていることから、雑草の発生時期や生育が早まっています。下図を参考に、**散布適期の範囲内における早め（雑草・藻類の発生前～発生初期）の除草剤使用により、雑草の発生防止に努めて下さい!!**

① 一発処理パターン：気象予報を確認し、出来るだけ早めに散布しましょう!



② 体系処理パターン1：田植え後（田植え同時）に初期剤（メテオ）を使用する場合



③ 体系処理パターン2：やむを得ず、代かきから田植えまでの日数が7日以上となる場合

★初期除草剤の使用は、河川への流出を防止（環境への配慮）するため、**移植前の使用を極力控え、移植後の使用を基本とするのジャ!!**

やむを得ず、移植前に初期除草剤を使用する場合は、必ず「田植え7日前まで」に散布するのジャ!!



- * 1 除草剤散布後7日間は、止水管理（入水・落水・かけ流しをしない）としましょう。
- * 2 気温や水田状況（保水力・雑草発生状況など）により、雑草の発生時期が異なります。発生してからでは手遅れになります。適期散布と適正な水管理を徹底しましょう!!

～～宮農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの宮農センターへ～～

＜＜特殊雑草への対応＞＞

◆【藻類、表層はく離】
概ね田植え後1週間ころから雑草の発生が始まります。「発生前までに初中期一発剤（ベッカク）を散布すること」を基本に、除草剤散布前に発生が見られた場合は、対策資材（5割減栽培：田んぼの鉄人、慣行栽培：モゲトン粒剤）の使用や水の更新を行い、除草剤の拡散性を確保しましょう!!

LINE 宮農情報LINE 営業中(*!w!)!

LINEアプリの[ホーム]から [友だち追加] > [QRコード] で 右のQRコードを読み取るのジャ!!

宮農・稲作に関する情報を 随時・迅速に配信しています!

「友だち登録」お待ちしております!! m(_)_m